

今週（10月29日から11月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、10月31日までは日銀当座預金残高が390兆円台後半で推移していたものの、11月1日は2年債発行で不足日、2日は税揚げ要因により不足日となったことで、390兆円程度まで減少した。週を通して調達意欲が乏しく、無担保コールO/N加重平均レートは先週対比で全般的に小幅低下し、▲0.07%近辺の推移となった。業態別では都銀・信託・外銀・証券業態で▲0.086～▲0.08%、地銀業態では▲0.086～▲0.04%の出会いであった。また月末要因により、31日はO/Nの残高が大幅に減少した。ターム物も小幅低下の展開で、1～2W物で▲0.05～▲0.03%の出会いが複数見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは2日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,763億円（期落ち額1,502億円）と札割れとなった。

10月30日～10月31日に開催された金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.150～▲0.110%程度の水準で推移した。一日を通し、引け間にレートが上昇しやすい地合いが続いた。

SC個別銘柄では、5年130～137、10年335～352、20年160～166、30年55～60、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散としたマーケットとなる中、引き続き償還日が年末越えとなる3M物を中心に、低い水準のレートで推移するマーケットとなった。

30日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。引き続き買入額は少額にとどまったものの、按分落札利回較差±0.000%、平均落札利回較差+0.003%となり、実勢水準を鑑みると堅調な結果であった。

11月2日に実施された3M物の入札は、WI取引において一時▲0.35%の出会いが見られたものの、その後は▲0.30%まで売られる展開となる中、平均落札利回▲0.2980%、按分落札利回▲0.2836%と、引き続き低いレート水準での決着となった。

●CP市場

今週のCP市場は、月末・月初を跨ぐ週となり、ノンバンク、鉄鋼、機械、電力等の幅広い業態から大型発行が実施され、償還総額1兆3,000億円強に対し、発行総額1兆7,000億円弱となる活況なマーケットとなった。期が明けて以来、市場残高は順調に伸張し、18兆円台での推移となっている。発行レートについては、オペに対する期待感剥落しているものの、市場参加者のキャッシュ潰しと思われる玉確保ニーズが引き続き堅調に推移しており、一部希少銘柄では▲0.01%台で決着する動きが見られたほか、その他の案件でも▲0.002～0%付近での出会いが中心と、発行レートは横ばい圏での動きとなっている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/29 (月)	21,149.80	0.105	111.95	△ 0.070	△ 0.148	3,966,100
10/30 (火)	21,457.29	0.115	112.51	△ 0.072	△ 0.175	3,962,500
10/31 (水)	21,920.46	0.121	113.24	△ 0.068	△ 0.136	3,970,300
11/1 (木)	21,687.65	0.120	112.89	△ 0.071	△ 0.146	3,940,300
11/2 (金)	22,243.66	0.125	113.05	△ 0.071	△ 0.142	3,908,100

来週（11月5日から11月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
11/5 (月)	名古屋での経済界代表者との懇談にて黒田総裁講演 金融政策決定会合議事要旨(9月18,19日分 8:50) 11月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)			10月のISM 非製造業景況指数
11/6 (火)	9月の全世帯家計調査(総務省 8:30)	10Y物価連動 4,000億円 11/7発行		
11/7 (水)	高知県金融経済懇談会にて布野審議委員講演 10月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 9月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00) 9月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	交付税借入 10,500億円 11/15借入		米FOMC(1日目) 9月の米消費者信用残高
11/8 (木)	決定会合における主な意見(10月30,31日分 8:50) 9月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の機械受注統計(内閣府 8:50) 10月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB6M 23,000億円 11/12発行	流動性供給 4,000億円 11/9発行	米FOMC(2日目)
11/9 (金)	10月のマネーストック(日銀 8:50)	TB3M 43,000億円 11/12発行	エネルギー 対策借入 6,000億円 11/20借入	10月の米生産者物価指数 9月の米卸売売上高 11月のミンガン大消費者信頼感指数速報 7-9月期の英GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/5 (月)	1,000	▲ 3,500	▲ 2,500	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完	▲ 1,500 ▲ 100 200	12,200 1,800	12,600	10,100	TB3M発行▲43000償還41400
11/6 (火)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	
11/7 (水)	1,000	▲ 4,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	10Y物価連動発行▲4000
11/8 (木)	0	1,000	1,000				0	1,000	
11/9 (金)	0	▲ 7,000	▲ 7,000	CP買入		2,000	2,000	▲ 5,000	流動性供給▲4000 交付税借入▲10500期日10500 預保借入期日600
週間合計	3,000	▲ 11,500	▲ 8,500	—	▲ 1,400	16,000	14,600	6,100	

11/5は日銀予想、11/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、特段大きな資金需給要因は無い見込み。無担保コールO/N加重平均レートは、積み期間後半に入ったものの、低位で推移することが予想される。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短期市場は、8日に6M物、9日に3M物の入札が実施予定となっており、レート水準が注目される。CP市場は来月の賞与払い等に備え、例年発行が活発になる時期に差し掛かることで、発行市場の動向が注視される。

主要なイベントとしては、海外では7～8日のFOMC、9日に7-9月期の英GDP速報値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されており、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。